

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

京都大学

前期日程

科目	数学(理系)
----	--------

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

図形、整数・整式、確率、微分、積分といった従来の京大らしい問題であった。昨年度よりも手が動かしにくい問題や場合分けが必要な問題が増えてやや難化した。

医学部医学科以外であれば、6を完答し、1と2と5のうち2問程度完答できれば及第点であろう。4はどのような場合を考えればよいかまで到達できたとしても変数を自分で設定したりしなければならず難しい。3と4の出来具合が医学部医学科の可否を決めたかもしれない。

〈特記事項・トピックス〉

小問構成の出題がなかった。

例年6は難しい問題であったが、今年は最も6が易しかった。

数学Ⅲからの出題である1、5は、いずれも文字が含まれ場合分けが必要な問題ではあるが手は動きやすい。

2、4はいずれも図形の把握、変数の設定、図形量の最大・最小やとりうる値の範囲を考える問題であった。

2、6が文系との共通問題であった。

複素数平面の問題が出題されなかった。

〈合格への学習対策〉

図形、整数・整式、確率、数学Ⅲの微分積分は頻出である。誘導のない問題が出題されることが多く、日頃の学習において、分野の選択、変数の設定、誘導の意味や目的の分析を心がけるとよい。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	記述	Ⅲ	微分	曲線と直線の共有点の個数が2である条件	標準
2	記述	A、C	図形、座標、ベクトル	正四面体の向かい合う2辺上の2点間の距離	標準
3	記述	Ⅱ、B	整数、整式	整式の係数に関する論証	難
4	記述	I、Ⅱ	三角比、三角関数	正方形を含む正三角形の1辺の長さの最小値	難
5	記述	Ⅲ	積分	三角関数のグラフで囲まれた領域の回転体の体積	やや難
6	記述	A	確率	1～nから3数取り出したときの最大数の期待値	やや易

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。